

第4回広島工業大学研究室訪問事業～地元企業の現場見学会～

1 日時

平成25年10月4日（金曜日）13時30分から16時30分まで

2 地元企業の現場見学

株式会社ギケン（廿日市市津田）



株式会社ギケンの社屋は、山々に囲まれ、裏手の小川からはせせらぎが聞こえてくる。

四季の移り変わりを肌で感じることのできる環境の中で、ワンランク上の企画力と確かな開発力により、デザインから金型製作、小ロット生産までのワンストップのモノづくりが行われている。

整理整頓された社内からは、やる気や活気が溢れ、社員レベルの高さが伺える。

車のデザイン開発に欠かせない存在であるクレイモデル。

クレイモデラーによるクレイモデル製作の実演では、高い技術力を目の当たりにした参加者から次々と質問が上がった。

普段見ることのできないクリエイティブなモノづくりの現場に、参加者は強い刺激やインスピレーションを受けたようである。



3 産学官連携の事例紹介

広島工業大学 共同研究機構 産学連携推進センター長 土取 功氏

産学官連携の成功は、それぞれの立場の違いから生じる異なる価値観、異なる環境の存在を認め合うことにある。

お互いの理解と協力で give and take が成立する関係を築くことで、それぞれの使命と役割をさらに高めていくことができる。



4 意見・情報交換（グループ討議）

地元企業、広島工業大学の教授・学生、中小機構、商工会、市など、日頃は交流することのない異業種が4グループに分かれて意見・情報交換を行った。

モノづくりの現場を生で見て感じたことやこれまでの経験談などの意見・情報交換は、今後の業務や研究への取組みの参考になったようである。



5 参加者



- (1) 市内企業など6社（9名）
- (2) 広島工業大学（10名）
- (3) (独)中小企業基盤整備機構中国本部（3名）
- (4) 佐伯商工会（2名）
- (5) (株)シーズ総合政策研究所（2名）
- (6) 廿日市市（4名）

6 参加者の感想など

- ・ デザインから金型製作、最終製品までの一連の現場を見せていただき大変勉強になった。
- ・ 凄い技術と高い精度があり、モノづくりの原点を知ることができた。
- ・ 素晴らしい技術を細かいところまでらせていただき感激した。
- ・ 地元素晴らしい技術とノウハウを持った企業があることをもって他の企業や地域に知ってもらいたい。
- ・ 現場が整理されており、効率的な運用がなされている。
- ・ 産学官連携を行うにあたり、まだまだ解決すべき問題があると感じたが、クリアできない問題でもないと感じた。
- ・ 多分野間の連携がうまくいってこそ成功に繋がると感じた。
- ・ 貴重な機会で大変良い経験ができた。

